



「何でもチャレンジする精神がモチベーションの元になっています」と福水さん。その精神は選手たちにも確実に伝わっているようです



鹿児島県選抜知的障害者バスケットボール男子チーム 監督  
ふく みず ゆう じ

## 【福水 優士】さん

鹿児島市

### 今注目を集めるバスケットボール 2020年を見据えたチームづくり

今年には八村塁選手の活躍や、男子日本代表チームがワールドカップに出場するなど、バスケットボールが注目を集めています。2020年には、東京オリンピック・パラリンピック、鹿児島では国体、全国障害者スポーツ大会が開催されます。

2014年に結成された「鹿児島県選抜知的障害者バスケットボール男子チーム」を率いるのが、昨年10月から監督に就任した福水優士さん。肝付町出身で、地元鹿児島のプロバスケットボールチーム「レノヴァ鹿児島」(現「鹿児島レブナイズ」の前身)でキャプテンも務めました。現在のチームでは、高校生から社会人まで15人が練習に励んでいます。

### 常に前向きな言葉と視線で 向き合う姿勢が成果につながる

福水さんと知的障害者バスケットボールとの出会いは、自身がプロチームに所属

していたときに、国の地域振興事業の一環で、県内の特別支援学校を訪問したときのことでした。講師として生徒たちにバスケットボールを指導していくうちに、喜びを体全体で伝える生徒たちの素直な感情表現に心を打たれました。また、保護者の方々と交流する中で、生徒たちの力になりたいと思ったこともきっかけとなったそうです。

現在は「ハートピアかごしま(鹿児島県障害者自立交流センター)」で、企画指導員も務める福水さんの指導法は「楽しみながら強くなるうー!」が「コンセプト」。「教えるのが抜群に上手で、選手のハートをつかむのがうまい」と同センター企画係長の丸野奈央さんは話します。

4月に開催された九州地区ブロック予選大会では、前回の試合で大差をつけられた、強豪の福岡市チームを相手に6点差で惜敗。「言葉で示すだけでなく、プレーして見せる」「否定的な言葉は使わない」「短所より長所を伸ばす」など、常に前向きな



試合では福水さんの予想を超えて、いいプレーを見せてくれるというチームのメンバー。来年の全国障害者スポーツ大会への期待が高まります

言葉と視線で選手たちと向き合う指導法が成果をもたらし、選手たちの自信にもつながったようです。  
個性豊かな選手たちと接していると、日々新しい発見があるという福水さん。スピード感あふれる試合展開がバスケットボールの醍醐味だけに、「一人ひとりの個性を活かした「走れるチームづくり」を目指しています。「いつか福水さんのようなプレーができるようになりたい」と目を輝かせる選手たちともに見据える目標は、「来年の全国障害者スポーツ大会での優勝」と笑顔で応えてくれました。

鹿児島県選抜知的障害者バスケットボール男子チーム(障害者自立交流センター)

鹿児島市小野1丁目1番1号

TEL 099-218-4333

FAX 099-220-5420

